

『臥龍梅』 歳便り

平成二十九年睦月



明けましておめでとうございます。今年のお正月はいかがお過ごしだったでしょうか。

先ずは昨年12月のイベントのご報告。12月3日、静岡市在住の応援団員の望月さんが七代目**月亭文都師匠**をお招きして**寄席月の聴**を開催しました。場所は静鉄新静岡駅から徒歩1分という至便の距離にあるworkspace AOSIMA というレンタルスペースで、静岡市のど真ん中にありながら駿府城のお堀を前にした閑静な会場です。昼の部14:00からと夜の部19:00からの2部制で、わが三和酒造は各部の中入り後に臥龍梅の試飲会を催して友情協力いたしました。また昼の部終演後は同会場でワンコイン呑酒会に、夜の部終演後は場所を移して**関東おでん千石**さんでの臥龍梅飲み放題、料理食べ放題の会に参加しました。ここであらためて月亭文都師匠についてご紹介いたします。1960年、大阪生まれ。1986年3月、大学卒業と同時に月亭八方師匠に入門。1996年、なにわ芸術祭落語部門新人賞、大阪府知事賞、大阪市長賞を受賞。平成9年度大阪芸術劇場奨励新人に指定。2012年、第6回繁昌亭奨励賞受賞。そして2013年3月、月亭八天改メ、**大名跡月亭文都襲名**という輝かしいキャリアに輝くまさに上方落語の雄なのであります。今回は師匠の独演会で古典の**二番煎じ**、中入り後に新作の**うばすて村**を聞かせてくださいました。嬉しいことにいつもお酒にまつわる噺をしながら途中で臥龍梅の名前を連呼してくださいます。今回は**二番煎じ**の噺中でした。きさくな人柄で、宮大工の棟梁である望月さんが特別に制作した高座の上でこんなスナップ写真にはいって下さいました。私をまん中に挟んで右側が文都師匠、左側が望月さんです。新作の**うばすて村**はストーリーがどんどん展開して行って最後はシュールな趣さえ感じさせる大作でした。皆さんに文都師匠の名人芸を堪能していただいた後は臥龍梅をたっぷり堪能していただきました。ご覧ください、この空き塚の山！ところで**柚月裕子**さんという作家の**検事の死命**という小説をご存知ですか？私は知らなかったのですがある方から教えていただいてびっくり。作中にわが臥龍梅が**滅多に手に入らない幻の銘酒**として登場しているのです。30万部を突破するベストセラーでテレビドラマ化もされています。応援してくださっているような気がして嬉しくなり、私の方もすっかり柚月さんのファンになりました。皆さんも是非とも書店でお買い求めご一読ください。ちなみに宝島社文庫刊、定価660円です。



さて、今月のお奨めは**純米吟醸 超辛口 五百万石 55%**です。+9の辛口ながらただ辛いだけでなく臥龍梅ならではの芳醇な含み香が魅力で、この時期でしたらお燗酒にもうってつけです。それからちょっと気が早いようですが、来月4日の立春に合わせて上槽、発売予定の**純米吟醸 初春しぼり**をご案内いたします。誉富士55%の生酒で数量限定、予約ご注文にて一斉出荷いたします。可愛らしいピンク色のボトルを特注いたしました。乞うご期待！

寒さのりからおかせなど召ませぬよう。

平成29年1月吉日

敬具

鈴木 克昌